

**【教員氏名】**

永水 裕子

**【単位数】**

2 単位

**【演習概要】**

科学技術・医療技術の発展により、今までは不可能だったことが可能となり、例えば、自然の状態では子どものできないカップルが、生殖補助医療技術により子をもうけることも可能となった。しかし、技術的には可能なことであっても、当事者の人権や尊厳を侵害していないか、かりに侵害していないとしても、本当にそのような技術を利用することが倫理的に適切なのかというジレンマが生ずることがある。この講義では、このような問題について取り上げ、受講生自らに考えてもらうことにより、様々な問題に対して、皆さんが、マスコミが作り出すイメージや感情論から独立して自らの意見を形成できるように材料を提供していく。

**【学習目標】**

この講義で扱うテーマには、絶対的な正解はない。従って、答えを覚えようという作業は全く意味を成さない。生命倫理の観点から対立のある問題については、とにかく自らの頭で考え続けて自分なりの結論を導き出すしかない。感情論ではなく、受講生が、自分の頭で色々な観点から考えた上で自分の意見を形成できるようになるのが目標である。ただし、優しい気持ちを失わずに・・・ということも目標の一つである。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション－患者の権利
- 第2回：医療訴訟・医療安全管理
- 第3回：医療情報とプライバシー
- 第4回：生殖補助医療をめぐる諸問題
- 第5回：生命誕生の場面における選択（出生前診断、着床前診断等）
- 第6回：重症新生児の治療をめぐる問題
- 第7回：終末期医療をめぐる問題（1）
- 第8回：終末期医療をめぐる問題（2）
- 第9回：再生医療をめぐる問題
- 第10回：臓器移植に関する問題
- 第11回：薬をめぐる規制－薬害を中心に
- 第12回：医学研究に関する問題
- 第13回：人体をめぐる問題
- 第14回：死因究明に関する問題
- 第15回：試験およびまとめ

**【成績評価の方法】**

試験評価：100%

**【参考文献】**

- 宇都木伸・塚本泰司編『現代医療のスペクトル』（尚学社）
- 手嶋豊『医事法入門第3版』（有斐閣）
- 甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』（法律文化社）
- 久々湊晴夫＝旗手俊彦編『はじめての医事法 第2版』（成文堂）
- 甲斐克則編『ブリッジブック医事法』（信山社）

**【準備学習の指示】**

講義で得た知識をさらに発展させるために、講義の際に示した当該項目に関する参考文献を読むこと。また、講義についていくために、上記参考文献のいずれか、あるいは自分で選んだ本の中の該当箇所を事前に読んで予習すること。